

4.7 企業に対するプラスチックごみの排出抑制に係るアンケートの実施結果

4.7.1 目的

沖縄県内で使用されているプラスチック製の使い捨て食品包装容器や、紙製や再生利用容器、リユース容器（以下、「エコ容器」という。）の利用状況とプラスチック製の使い捨て容器からエコ容器への転換に関する動機や問題点、課題点を把握することで、プラスチック製の使い捨て食品包装容器からエコ容器への転換の可能性や効果的な転換方法を検討し、今後の目標設定に資することを目的とする。

4.7.2 実施方法

(1) 調査実施時期

本調査は、令和3年12月～令和4年3月に実施した。

(2) アンケート・ヒアリング実施方法

沖縄県内で使用されているプラスチック製の使い捨て食品包装容器やエコ容器の利用状況、使い捨て容器からエコ容器への転換に関する動機や問題点、課題点等を把握するため、テイクアウト実施の飲食業者や食品包装容器製造・販売業者を対象にアンケート及びヒアリング調査を実施した。調査対象と調査方法は表4.7-1に示すとおりである。また、テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票を表4.7-2に、食品包装容器製造・販売業社を対象としたヒアリング調査票を表4.7-3に示す。

表 4.7-1 アンケート・ヒアリング調査の対象と実施方法

対 象	●テイクアウト実施の飲食業者 200社程度 ①弁当(ごはん・惣菜・汁物) ②ドリンク・かき氷類 ③パン類 ④観光地の出店
	●食品包装容器(プラスチック容器、エコ容器)販売業者 5社程度
手 法	紙、FAXを用いたアンケート調査、ヒアリング調査
ア ン ケ ー ト 項 目	<テイクアウト実施の飲食業者> ※主にアンケート調査 ●プラスチック容器、エコ容器の使用理由 ●プラスチック容器使用上の利点と問題点と対応策 ●エコ容器に転換した経緯と転換の条件、使用上の利点や効果、問題点と対応策 ●エコ容器転換を検討中の業者について検討に至った経緯と課題、対策策 ●今後の展望 等
	<食品包装容器製造・販売業社> ※主にヒアリング調査 ●エコ容器の製造・販売にいたる経緯、あるいは製造・販売しない理由 ●プラスチック容器、エコ容器販売先の販売形態、販売物の特徴 ●プラスチック容器、エコ容器それぞれの製造・販売における課題と対応策 ●今後の展望 等

表 4.7-2 (1) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

使い捨てプラスチック容器、エコ容器の使用状況に関するアンケート

沖縄県では、プラスチックごみの発生抑制のための取組に活用するために、使い捨てプラスチックの使用状況について把握するためのアンケート調査を実施いたします。お店で使用しているテイクアウト、店内用食品容器の使用状況について教えてください、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます（このアンケート用紙は全 8 ページありますが、実際にご記入頂くのはこのページを含め 3～4 ページです）。

実施者：日本エヌ・ユー・エス株式会社 沖縄事業所

担 当：

注) 本アンケートは現状を把握するためのものであり、本ご回答結果により沖縄県より指導や問い合わせはいたしません。

エコ容器 とは？

さとうきびの絞りかす(バガス)や、紙や間伐材等の木材を原料とした容器など、環境に配慮した素材を原料全部、または原料の一部に使用している容器をさします。

店舗名・電話番号 []

※店舗名・電話番号は、弊社がアンケート配布先地区・件数等を整理するための情報となります。個人情報となりますので弊社から外部に情報提供は致しません。発注者である沖縄県環境部にも情報提供致しません。

店舗販売の種類（以下①～⑤で当てはまるものに○を付けて下さい）

①弁当(ごはん・惣菜・汁物) ②ドリンク・かき氷類 ③パン類
④観光地の出店 ⑤その他（具体的に：)

●事業規模、操業状況について、あてはまる□にチェック、または () 内にご記入をお願いいたします。

1 店舗あたりの従業員数 □1～5 人、 □～10 人、 □10 人～

店舗数 □1 店舗、 □～5 店舗、 □～10 店舗、 □10 店舗～

開業年 (年)

主な販売商品 ()

販売形態 □テイクアウト専門、 □テイクアウト・店内利用の併用

主な購買層 年 代： □～10 代、 □20～30 代、 □40～50 代、 □50 代以上

地域性：□沖縄県民（□小・中学生、□高校生以上の学生、□会社員等の従業者、

□その他）、□観光客等の県外者

Q1 販売している商品の包装容器やカトラリーに使い捨てプラスチックを使用していますか？

□ 全て、あるいはほとんどの商品で使用している ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ Q2 へお進みください

□ 一部で使用しているが可能なものはエコ容器を使用 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ Q3 へお進みください

□ 極力エコ容器を使用し、プラスチック製品は最低限使用している ⇒⇒⇒ Q3 へお進みください

□ 使い捨てプラスチックは使用していない ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ Q4 へお進みください

表 4.7-2 (2) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

Q-2

Q2-1 (p.2) ~Q2-5(p.3)にお答えください。

Q2 商品の包装容器等に使い捨てプラスチックを使用されている方に質問です。

Q2-1 商品に使用されている使い捨てプラスチック容器にはどのようなものがありますか？

食 器) ☐ お碗・カップ型プラ容器、お碗・カップ型発泡スチロール容器

☐ 皿型プラスチック容器、皿形発泡スチロール容器

☐ プラスチック製弁当容器

☐ プラスチック製フードパック

☐ プラスチック製ドリンク容器

☐ その他 (

包装用品) ☐ ラップ類

☐ ビニール袋類

☐ その他 (

カトラリー) ☐ フォーク・ナイフ・スプーン

☐ ストロー

☐ その他 (



Q2-2 商品に使用されている使い捨てプラスチック容器の使用量（仕入れ量）を教えてください。

●使い捨てプラスチック容器

※大まかな量でも構いません

製品の種類 (例 弁当容器、スプーンなど)	使用量 (仕入れ量)	単位 (kg・個など)	記入した使用量の期間 (日・週・月など)

Q2-2 商品の包装容器等に使い捨てプラスチックを使用されているなかで良い点と課題や問題点があればお答えください。

●良いと感じる点（複数回答可）

☐ 安価 ☐ 仕入れ先が多い ☐ ストックしやすい ☐ 耐水性、耐熱性等の機能が低い

☐ 透明で中身が見える

☐ その他 (

●課題や問題と感じる点（複数回答可）

☐ 環境への負荷があると感じる

☐ 使い捨てプラスチック容器使用廃止に向けたの流れに逆行していると感じる・指摘される

☐ その他 (

表 4.7-2 (3) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

Q2-3 使い捨てプラスチックの使用に対するあなたの考えとその理由をお答えください。

- ☐ これからも使い捨てプラスチック容器を積極的に使用したい
- ☐ エコ容器やリユース容器など環境に配慮した容器等を使用したいが課題が多くて困難
- ☐ 機会があればエコ容器、リユース容器等の環境に配慮した容器等の使用を検討したい
- ☐ エコ容器、リユース容器等の環境に配慮した容器に積極的に転換していきたい

そのように回答された理由 ()

Q2-4 古紙やバガス、でんぷんなど原料とした環境配慮型容器（エコ容器）等の環境に配慮した容器の普及において、課題となる点はなんだと思いますか？

- ☐ プラスチック製品と比較して高価 ☐ 仕入れ先が少ない ☐ 十分な供給量がない
- ☐ 容器の種類が少ない ☐ 耐水性、耐熱性等の性能が劣る ☐ ストック（かさ張る・湿気を嫌う）
- ☐ 中身が見えない ☐ その他 ()

Q2-5 このほか、環境に配慮した取組があれば教えてください。

()

ご協力ありがとうございました

表 4.7-2 (4) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

Q-3 Q3-1 (p.4) ~Q3-9(p.6) にお答えください。

Q3 商品の包装容器等の一部に使い捨てプラスチックを使用されている方に質問です。

Q3-1 商品に使用されている使い捨てプラスチック容器にはどのようなものがありますか？

食器) ☐ お碗・カップ型プラ容器、お碗・カップ型発泡スチロール容器

☐ 皿型プラスチック容器、皿形発泡スチロール容器

☐ プラスチック製弁当容器

☐ プラスチック製フードパック

☐ プラスチック製ドリンク容器

☐ その他 ()

包装用品) ☐ ラップ類

☐ ビニール袋類

☐ その他 ()

カトラリー) ☐ フォーク・ナイフ・スプーン

☐ ストロー

☐ その他 ()



Q3-2 商品に使用されているエコ容器（古紙やバガス、でんぷんなど原料とした環境配慮型容器）にはどのようなものがありますか？

食器) ☐ お碗・カップ型容器

☐ 皿型容器

☐ 弁当容器

☐ フードパック

☐ ドリンク容器

☐ その他 ()

包装用品) ☐ 包装紙類

☐ 袋類

☐ その他 ()

カトラリー) ☐ フォーク・ナイフ・スプーン

☐ ストロー

☐ その他 ()



Q3-3 お使いのエコ容器の種類（原材料）について教えてください。

☐ さとうきび ☐ とうもろこし ☐ 古紙 ☐ でんぷん ☐ 不明

☐ その他 ()

表 4.7-2 (5) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

Q3-4 商品に使用されている使い捨てプラスチック容器、エコ容器等の使用量（仕入れ量）を教えてください。

●使い捨てプラスチック容器

※大まかな量でも構いません

製品の種類 (例 弁当容器、スプーンなど)	使用量 (仕入れ量)	単位 (kg・個など)	記入した使用量の期間 (日・週・月など)

●エコ容器等の環境に配慮した容器

※大まかな量でも構いません

製品の種類 (例 弁当容器、スプーンなど)	使用量 (仕入れ量)	単位 (kg・個など)	記入した使用量の期間 (日・週・月など)

Q3-5 商品の包装容器等に使い捨てプラスチックとエコ容器を併用されている主な理由をお答えください。

●使い捨てプラスチック容器を使用している理由（複数回答可）

- ☐安価 ☐仕入れ先が多い ☐ストックしやすい ☐耐水性、耐熱性等の機能が低い
☐透明で中身が見える ☐その他（ ）

●エコ容器を使用している理由（複数回答可）

- ☐環境負荷の低減になると感じる ☐プラスチック製品と比較して機能的に問題ないため
☐エコ容器の仕入れが可能になったため
☐その他（ ）

表 4.7-2 (6) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

Q3-6 商品の包装容器等にエコ容器を使用されているなかで良い点や効果、課題や問題点があればお答えください。

●良いと感じる点（複数回答可）

- ☐環境負荷の低減に貢献していると感じる ☐問い合わせが増えた
☐メディア等で取り上げられることがある ☐購買層の拡大につながった ☐インスタ映えする
☐その他（ ）

●エコ容器を使用することで売り上げの向上など「効果」を感じることがありますか？

- ☐効果を得ている ☐効果があると思う ☐効果は感じない ☐効果は少ない ☐効果はない
☐わからない
☐その他（ ）

●課題や問題と感じる点（複数回答可）

- ☐プラスチック製品と比較して高価 ☐仕入れ先が少ない ☐十分な供給量がない
☐容器の種類が少ない ☐耐水性、耐熱性等の性能が劣る
☐ストック（かさ張る・湿気を嫌う） ☐中身が見えない
☐その他（ ）

Q3-7 今後のエコ容器等の環境に配慮した容器の使用に対するあなたの考えとその理由をお答えください。

- ☐エコ容器等の使用を増やしたい ☐エコ容器等の使用は現状維持
☐エコ容器等の使用は減らしたい ☐エコ容器等の使用をやめたい
その理由（ ）

Q3-8 エコ容器の主な購入先についてお答えください。

購入品	購入先の名称（社名）	所在地

Q3-9 エコ容器の使用以外に、使い捨てプラスチック製品の削減に向けた取組があれば教えてください
 例) リユース食器の導入、マイボトルの推進など

（ ）

ご協力ありがとうございました

表 4.7-2 (7) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

Q-4 Q4-1 (p.7) ~Q 4-8 (p.8) にお答えください。

Q4 商品の包装容器等に使い捨てプラスチックを使用されていない方に質問です。

Q4-1 商品に使用されているエコ容器（古紙やパガス、でんぷんなど原料とした環境配慮型容器）にはどのようなものがありますか？

食器) ☐ お碗・カップ型容器

☐ 皿型容器

☐ 弁当容器

☐ フードパック

☐ ドリンク容器

☐ その他 ()

包装用品) ☐ 包装紙類

☐ 袋類

☐ その他 ()

カトラリー) ☐ フォーク・ナイフ・スプーン

☐ ストロー

☐ その他 ()



Q4-2 お使いのエコ容器の種類（原材料）について教えてください。

☐ さとうきび ☐ どうもろこし ☐ 古紙 ☐ でんぷん ☐ 不明

☐ その他 ()

Q4-3 商品に使用されているエコ容器等の使用量（仕入れ量）を教えてください。

●エコ容器

※大まかな量でも構いません

製品の種類 (例 弁当容器、スプーンなど)	使用量 (仕入れ量)	単位 (kg・個など)	記入した使用量の期間 (日・週・月など)

Q4-4 商品の包装容器等に使い捨てプラスチックを使用していない主な理由をお答えください。

表 4.7-2 (8) テイクアウト実施の飲食業者を対象としたアンケート調査票

Q4-5 商品の包装容器等にエコ容器を使用されているなかで良い点と課題や問題点があればお答えください。

●良いと感じる点（複数回答可）

- ☐環境負荷の低減に貢献していると感じる ☐お客様の反応がよい
☐購買層の拡大につながった
☐インスタ等の SNS への投稿が増えた ☐メディア等で取り上げられることがある
☐その他（ ）

●エコ容器を使用することで売り上げの向上など「効果」を感じることがありますか？

- ☐効果を得ている ☐効果があると思う ☐効果は感じない ☐効果は少ない
☐わからない ☐その他（ ）

●課題や問題と感じる点（複数回答可）

- ☐プラスチック製品と比較して高価 ☐仕入れ先が少ない ☐十分な供給量がない
☐容器の種類が少ない ☐耐水性、耐熱性等の性能が劣る ☐ストック（かさ張る・湿気を嫌う）
☐中身が見えない ☐その他（ ）

Q4-6 今後のエコ容器の使用に対するあなたの考えとその理由をお答えください。

- ☐今後もエコ容器を使用したい ☐エコ容器の使用は減らしたい
☐エコ容器の使用をやめたい その理由（ ）

Q4-7 エコ容器の主な購入先についてお答えください。

購入品	名称	所在地

Q4-8 エコ容器の使用以外に、使い捨てプラスチック製品の削減に向けた取組があれば教えてください。

例) リユース食器の導入、マイボトルの推進など

（ ）

ご協力ありがとうございました

表 4.7-3 (1) 食品包装容器製造・販売業社を対象としたヒアリング調査票

＜エコ容器 販売業者向けヒアリング用紙＞

Q1 販売されているエコ容器（古紙やバガス、でんぷんなど原料とした環境配慮型容器）にはどのようなものがありますか？

食器) ☐ お椀・カップ型容器

☐ 皿型容器

☐ 弁当容器

☐ フードパック

☐ ドリンク容器

☐ その他 ()

包装用品) ☐ 包装紙類

☐ 袋類

☐ その他 ()

カトラリー) ☐ フォーク・ナイフ・スプーン

☐ ストロー

☐ その他 ()



Q2 販売しているエコ容器の種類（原材料）について教えてください。（複数回答可）

☐ さとうきび ☐ とうもろこし ☐ 古紙 ☐ でんぷん ☐ 不明 ☐ その他 ()

Q3 エコ容器の販売を開始されたきっかけはなんですか？（複数回答可）

☐ 客先からの要望があった ☐ 需要があると見込んで ☐ 仕入れしやすくなった

☐ 環境保全に関心がある ☐ 使い捨てプラスチック容器の廃止の流れを受けて

☐ その他 ()

Q4 エコ容器の販売におけるメリット・変化はありますか？（複数回答可）

☐ 取引先が拡大した ☐ 問い合わせが増えた ☐ メディア等で取り上げられることがある

☐ その他 ()

Q5 エコ容器の販売における課題はありますか？（複数回答可）

☐ プラスチック製品と比較して高価 ☐ 仕入れ先が少ない ☐ 十分な供給量がない

☐ 容器の種類が少ない ☐ 耐水性、耐熱性等の性能が劣る ☐ 輸送コストが高い

☐ 中身が見えない

☐ その他 ()

Q6 エコ容器の販売における今後の展開とその理由をお答えください

☐ 販売先、仕入れ量、販売物の種類等の拡大予定

☐ 販売先、仕入れ量、販売物の種類等の拡大を検討 ☐ しばらくは現状を維持

☐ 縮小を検討 ☐ 縮小・廃止予定

その理由： ()

表 4.7-3 (2) 食品包装容器製造・販売業社を対象としたヒアリング調査票

＜エコ容器 製造業者向けヒアリング用紙＞

Q1 製造されているエコ容器にはどのようなものがありますか？

食器) ☐ お碗・カップ型容器 
☐ 皿型容器 
☐ 弁当容器 
☐ フードパック 
☐ ドリンク容器 
☐ その他 ()

包装用品) ☐ 包装紙類
☐ 袋類
☐ その他 ()

カトラリー) ☐ フォーク・ナイフ・スプーン
☐ ストロー
☐ その他 ()

Q2 製造しているエコ容器の種類（原材料）について教えてください。（複数回答可）

☐ さとうきび ☐ とうもろこし ☐ 古紙 ☐ でんぷん ☐ 不明 ☐ その他 ()

Q3 エコ容器の製造を開始されたきっかけはなんですか？（複数回答可）

☐ 客先からの要望があった ☐ 需要があると見込んで ☐ 廃棄物の有効活用
☐ 使い捨てプラスチック容器の廃止の流れを受けて
☐ その他 ()

Q4 エコ容器の製造におけるメリット・変化はありますか？（複数回答可）

☐ 取引先が拡大した ☐ 問い合わせが増えた ☐ メディア等で取り上げられることがある
☐ その他 ()

Q5 エコ容器の製造における課題はありますか？（複数回答可）

☐ 生産コストが高い ☐ 原材料の十分な供給量がない ☐ 生産における環境負荷が高い
☐ 廃棄物等を有効利用したいが製造方法が確立されていない ☐ 機能性（耐水・耐熱等）の確保
☐ その他 ()

Q6 エコ容器の製造における今後の展開とその理由をお答えください

☐ 製造量、容器の種類等の拡大予定 ☐ 製造量、容器の種類等の拡大を検討
☐ しばらくは現状を維持 ☐ 縮小を検討 ☐ 縮小・廃止予定
 その理由： ()

4.7.3 実施結果

(1) 実施対象者

① テイクアウト実施の飲食業者

テイクアウト実施の飲食業者へのアンケート配布実績を表 4.7-4 に、回答実績を表 4.7-5 に示す。アンケート用紙の配布は、全て直接店舗へ伺い手渡しで実施した。アンケート配布数は全 201 件であり、回答数は 39 件となり、回答率は約 20%であった。

表 4.7-4 テイクアウト実施の飲食業者へのアンケート配布実績

配布先地域 (全201件)	①弁当(ごはん・ 惣菜・汁物)	②ドリンク ・かき氷類	③パン類	④観光地の出店	合計
本島北部	9	6	3	10	28
本島中部	53	0	2	9	64
本島南部	45	9	2	2	58
久米島町	4	0	0	0	4
宮古島市	14	4	3	4	25
石垣市	12	5	5	0	22
合計	137	24	15	25	201

表 4.7-5 テイクアウト実施の飲食業者へのアンケート回答実績

回答地域 (全39件)	①弁当(ごはん・ 惣菜・汁物)	②ドリンク ・かき氷類	③パン類	④観光地の出店	⑤不明	合計
本島北部		3		1		4
本島中部	6			1		7
本島南部	5	1				6
久米島町	1					1
宮古島市	5	2	1	1		9
石垣市	3	3	1			7
不明	2	1			2	5
合計	22	10	2	3	2	39

② 食品包装容器製造・販売業者

食品包装容器製造・販売業者へのヒアリングについては、県内には食品包装容器製造業者が存在しないため、流通販売業者 2 社（令和 4 年 3 月 10 日時点）を対象とした。

(2) 実施結果

①テイクアウト実施の飲食業者（回答結果）

(a) 店舗販売の種類・事業規模・操業状況等

回答者の店舗販売の種類・事業規模・操業状況等を図 4.7 1 に、アンケートQ 1 の使い捨てプラスチック容器の使用状況を図 4.7-2 に整理した。

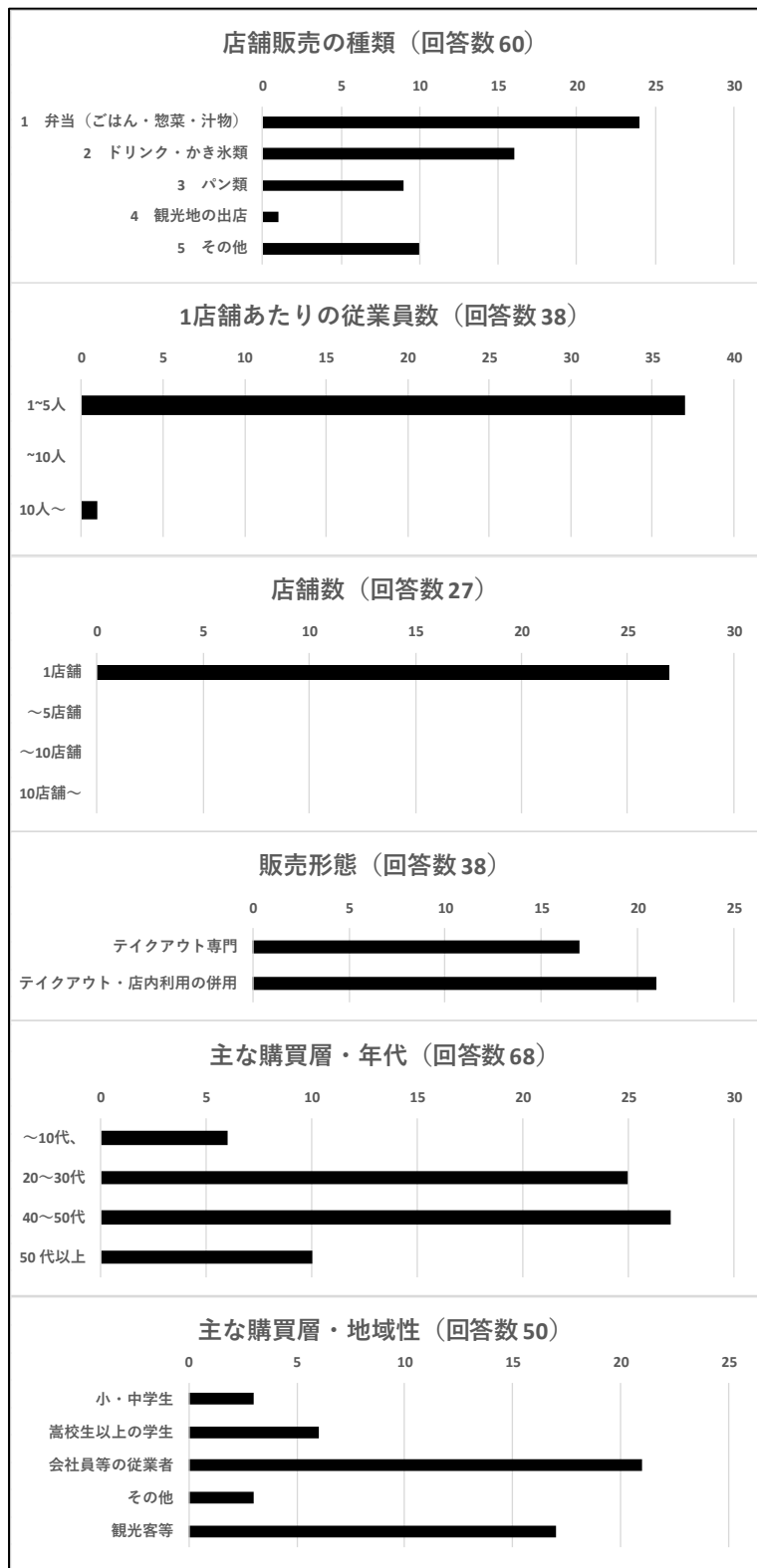


図 4.7-1 店舗販売の種類・事業規模・操業状況等

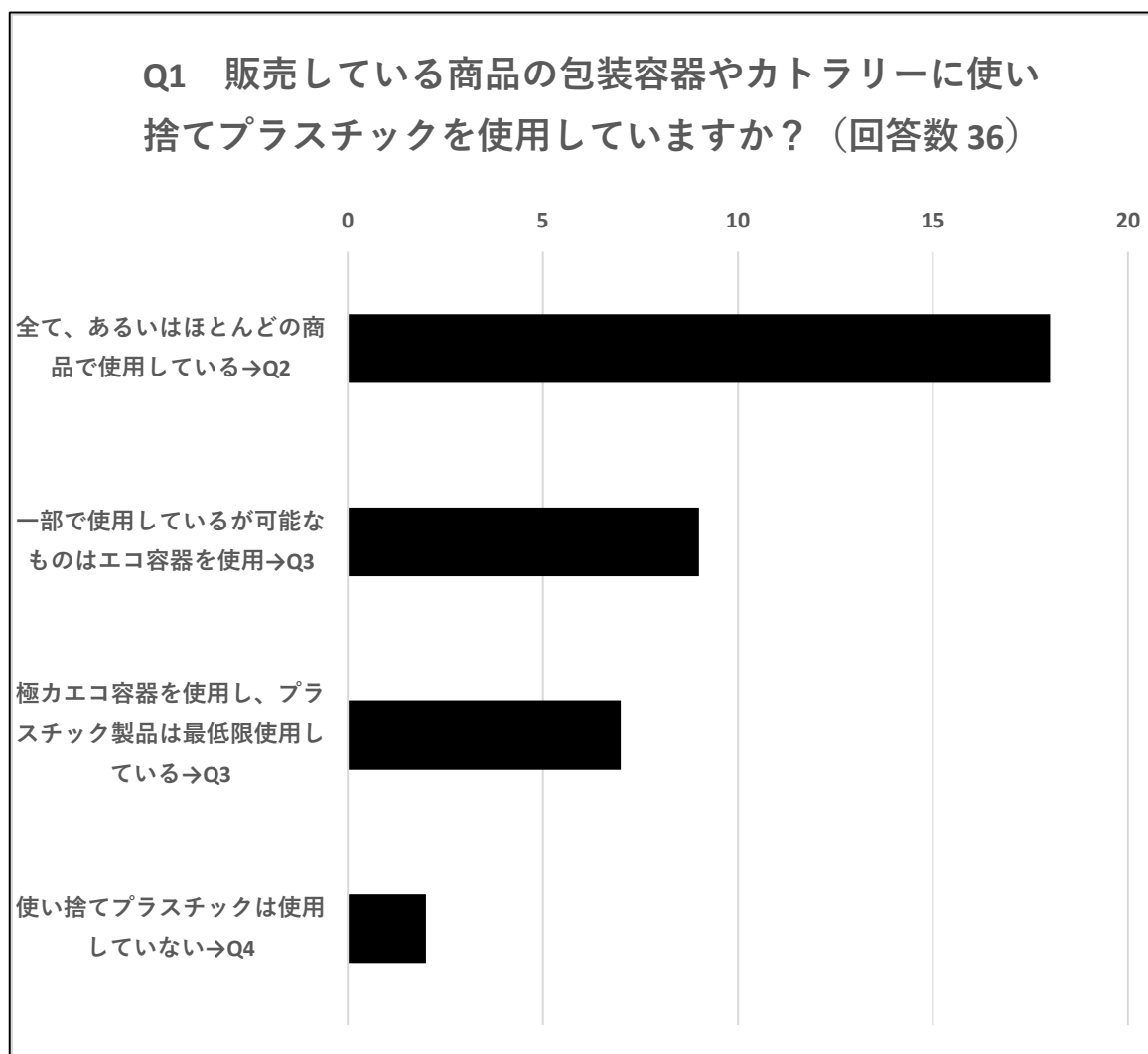


図 4.7-2 アンケートQ1：使い捨てプラスチック容器の使用状況

(b) 全てあるいは殆どの商品で使い捨てプラスチック容器を使用（Q 2）

Q 1において、全てあるいは殆どの商品で使い捨てプラスチック容器を使用していると回答した店舗のアンケート結果を図 4.7-3～図 4.7-5 に整理した。

図 4.7-3（Q 2－1）より、今回のアンケート実施において想定した食器類、包装用品、カトラリーの全ての種類のいずれかを使用している店舗からの回答が得られたことが解る。

図 4.7-4（Q 2－2）において、使い捨てプラスチック容器の良い点については、安価であるとの回答が最も多く、次いでストックしやすい、耐水性・耐熱性が高い、透明で中身が見えるとなっている。課題点については、環境への負荷があるとの認識が多くなっている。

図 4.7-5（Q 2－3～2－5）において、

（Q 2－3）使い捨てプラスチック容器の使用については、エコ容器やリユース容器を使用したいが課題が多くて困難という回答が多く、次いで機会があれば使用を検討したい、エコ容器やリユース容器等に積極的に転換していきたいとの回答もあり、これからも使い捨てプラスチック容器を積極的に使用したいという回答は少数であった。使い捨てプラスチック容器を使用する理由としては、エコ容器が高価であるとの回答が多かった。

（Q 2－4）エコ容器の普及における課題については、高価であることが最も回答数が多く、次いで容器の種類が少ない、仕入れ先が少ない、耐水性・耐熱性等の性能が劣るなども多くあげられている。

（Q 2－5）環境に配慮した取組については、レジ袋の無料配布の中止やごみの分別徹底、海岸清掃活動の実施など 5 つの回答を得られており、上記 Q 2－3 と合わせて考えると、全てあるいは殆どの商品で使い捨てプラスチック容器を使用している店舗であっても環境配慮の意識を持っていることが解る。

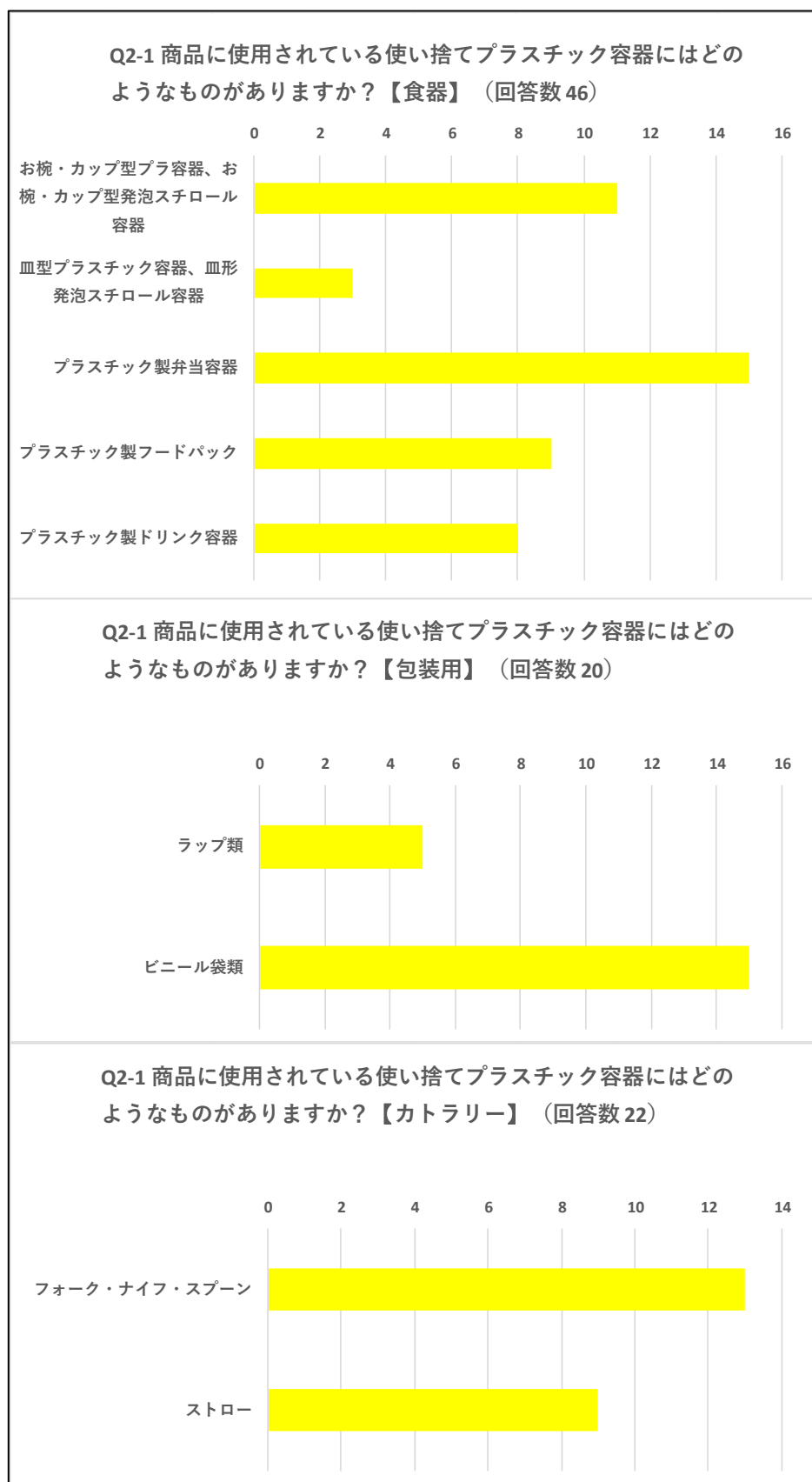


図 4.7-3 使用している使い捨てプラスチック容器の種類

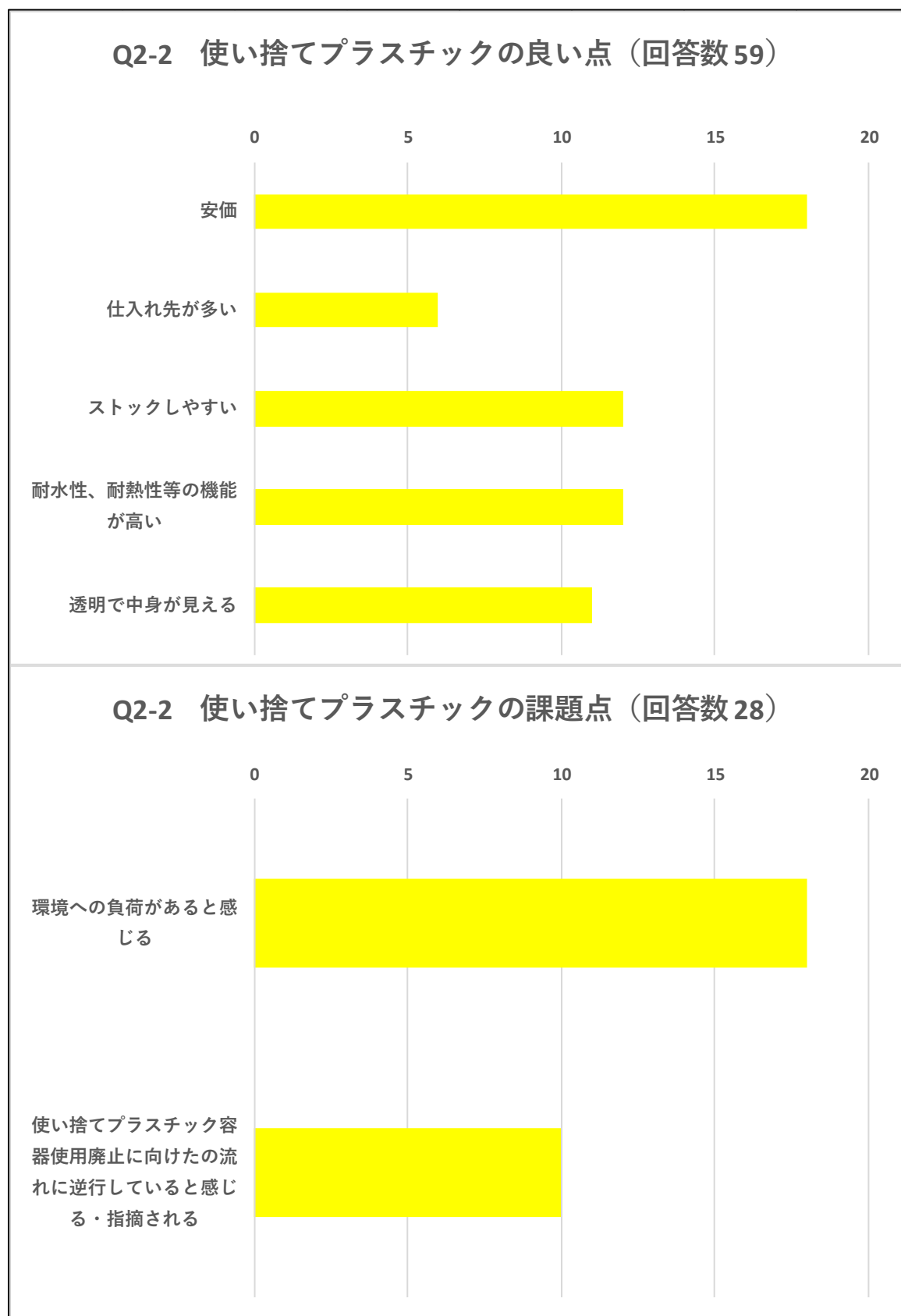


図 4.7-4 使い捨てプラスチック容器の良い点・課題点

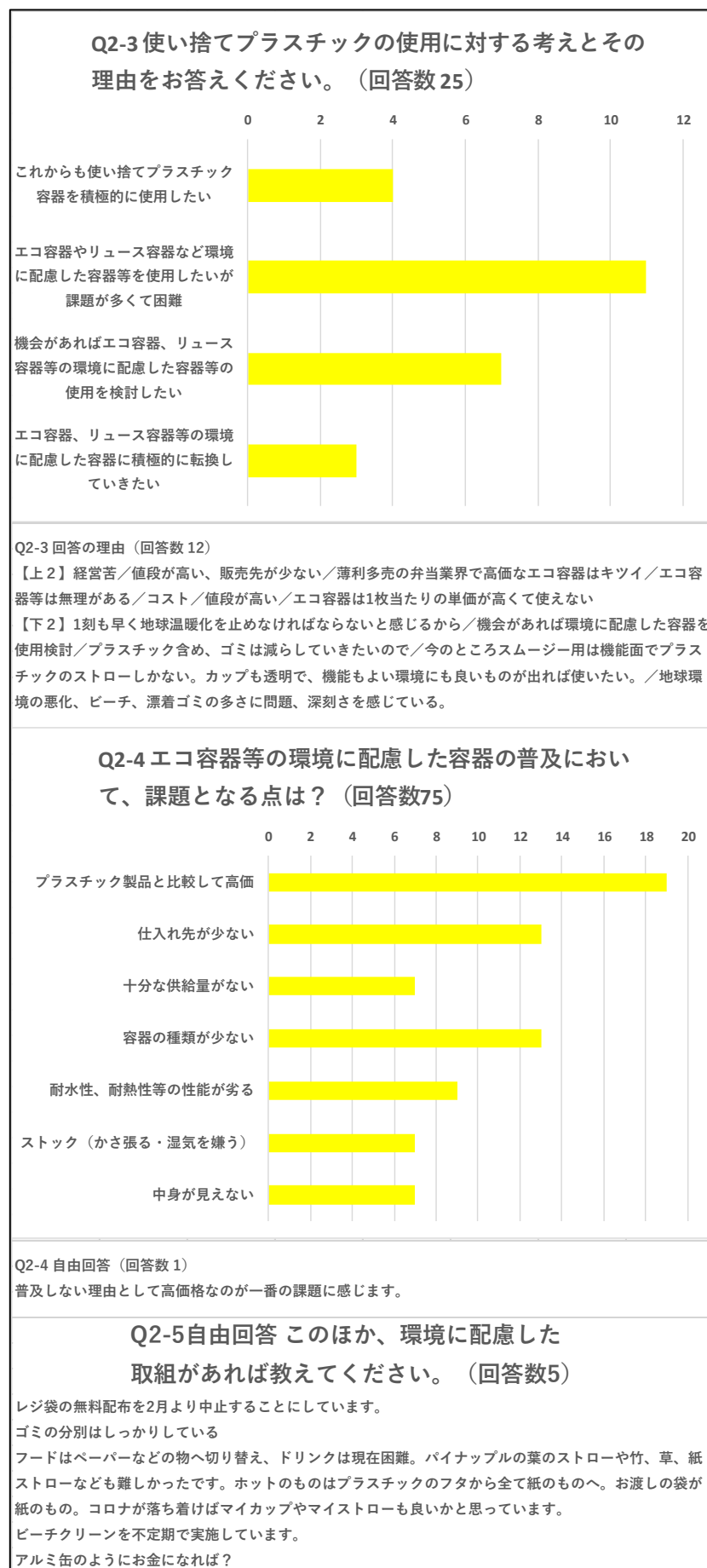


図 4.7-5 使い捨てプラスチック容器の使用・エコ容器普及の課題等

(c) 可能なもの、あるいは極力エコ容器を使用（Q3）

Q1において、使い捨てプラスチック容器を一部で使用しているが可能なものはエコ容器を使用、あるいは極力エコ容器を使用していると回答した店舗のアンケート結果を図4.7-6～図4.7-10に整理した。

図4.7-6（Q3-1）より、今回のアンケート実施において想定した使い捨てプラスチックの食器類、包装用品、カトラリーの全ての種類のいずれかを使用している店舗からの回答が得られたことが解る。食器類ではドリンク容器が最も多く、包装用品ではビニール袋類が多くなっている。

図4.7-7（Q3-2～3-3）において、

（Q3-2）今回のアンケート実施において想定したエコ容器の皿型容器を除く食器類、包装用品、カトラリーの種類のいずれかを使用している店舗からの回答が得られたことが解る。食器類ではドリンク容器が最も多く、包装用品では袋類が多くなっている。

（Q3-3）使われているエコ容器の原材料については、さとうきびが最も多くなっている。

図4.7-8（Q3-5）より、使い捨てプラスチックとエコ容器を併用している理由として、使い捨てプラスチック容器の使用については、安価、透明で中身が見える等の回答が最も多く、代わりとなるエコ容器が見つからないとの理由があげられた。一方でエコ容器の使用については、環境負荷の低減になるとの回答が多く、プラスチック製品と比較して機能的に問題ないとの回答あり、また商品のイメージに合う、お客様が燃えるごみとして捨てやすいという理由もあげられていた。

図4.7-9（Q3-6）より、エコ容器使用の良い点・効果・課題等については、良い点としては環境負荷の低減へ貢献していると感じるとの回答が多かった。売上げ向上等の効果については、効果は感じないとの回答が多く、効果は少ない、効果はないとの回答と合わせると大多数を占め、効果を得ているとの回答は無かった。課題や問題点については、プラスチック製品と比べ高価であるとの回答が多く、次いで容器の種類が少ない、仕入れ先が少ない、中身が見えないとの回答も多かった。

図4.7-10（Q3-7，3-9）において、

（Q3-7）今後のエコ容器の使用に対する考えとしては、使用を増やしたいとの回答が最も多く、これは環境に配慮した上で店のイメージアップとの理由があげられていた。現状維持、減らしたいとの回答は少数であったが、その理由として主に高価な点があげられていた。

（Q3-9）エコ容器の使用以外の環境に配慮した取組については、マイバック推進、ストローの使用中止、マイボトル・マイ食器割引の実施など10の回答があった。

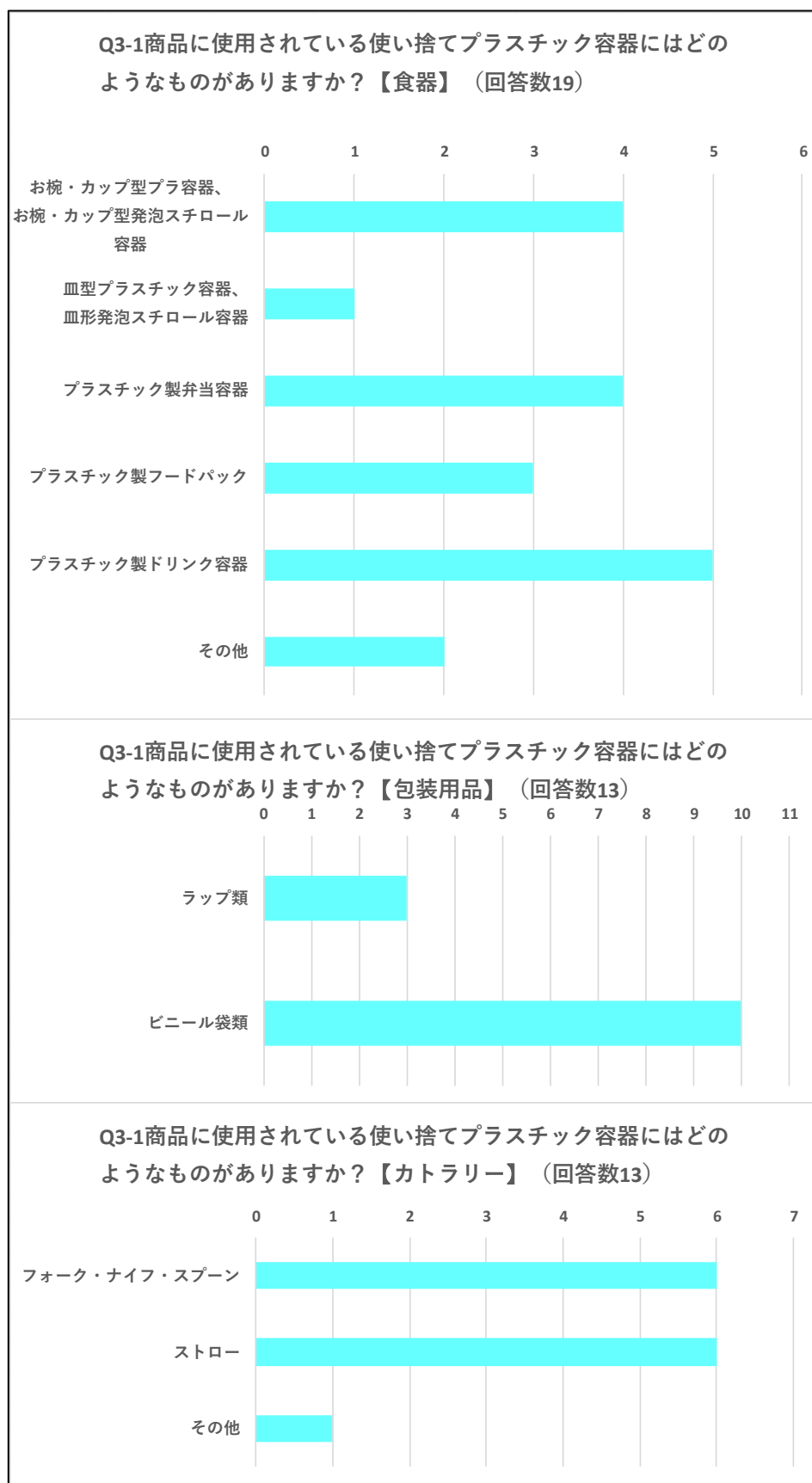


図 4.7-6 使用している使い捨てプラスチック容器の種類

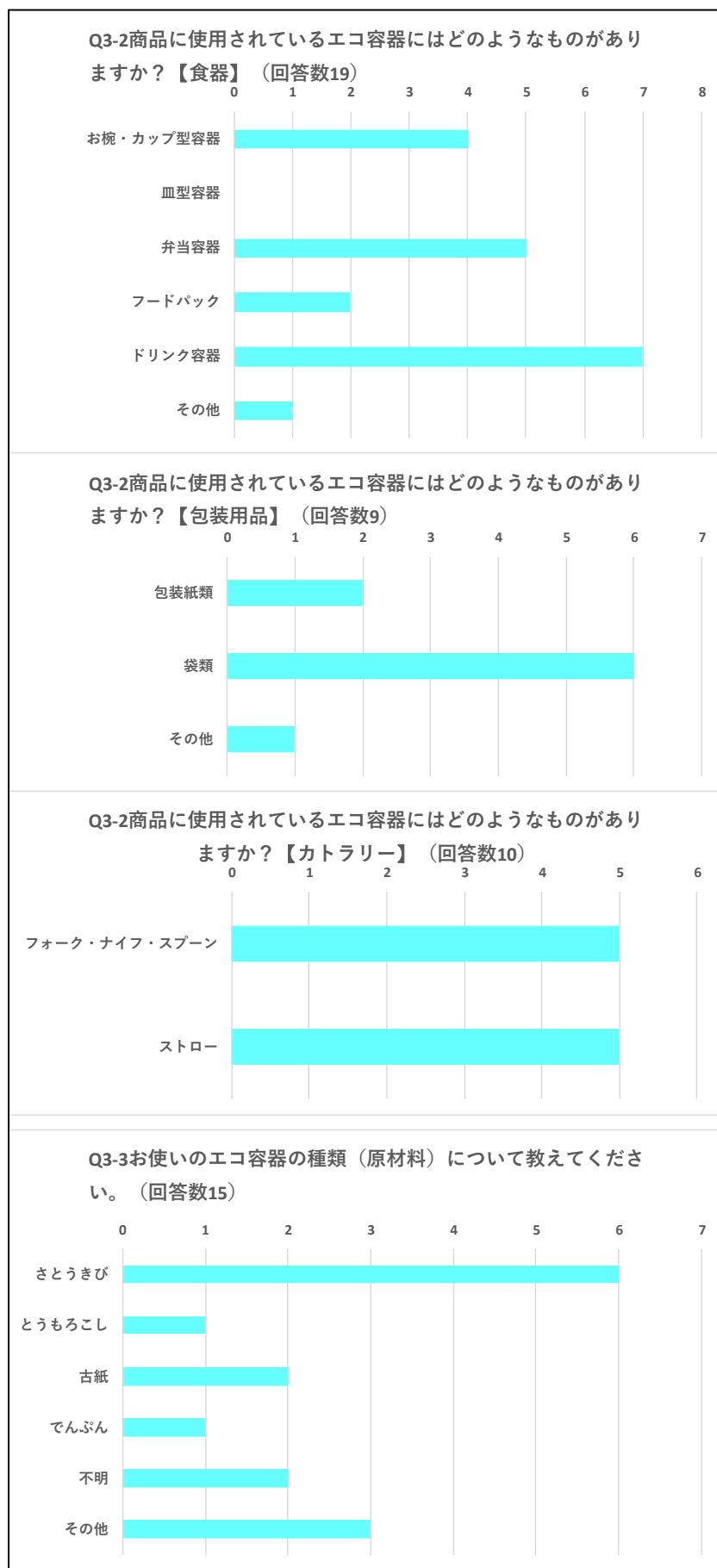


図 4.7-7 使用しているエコ容器の種類

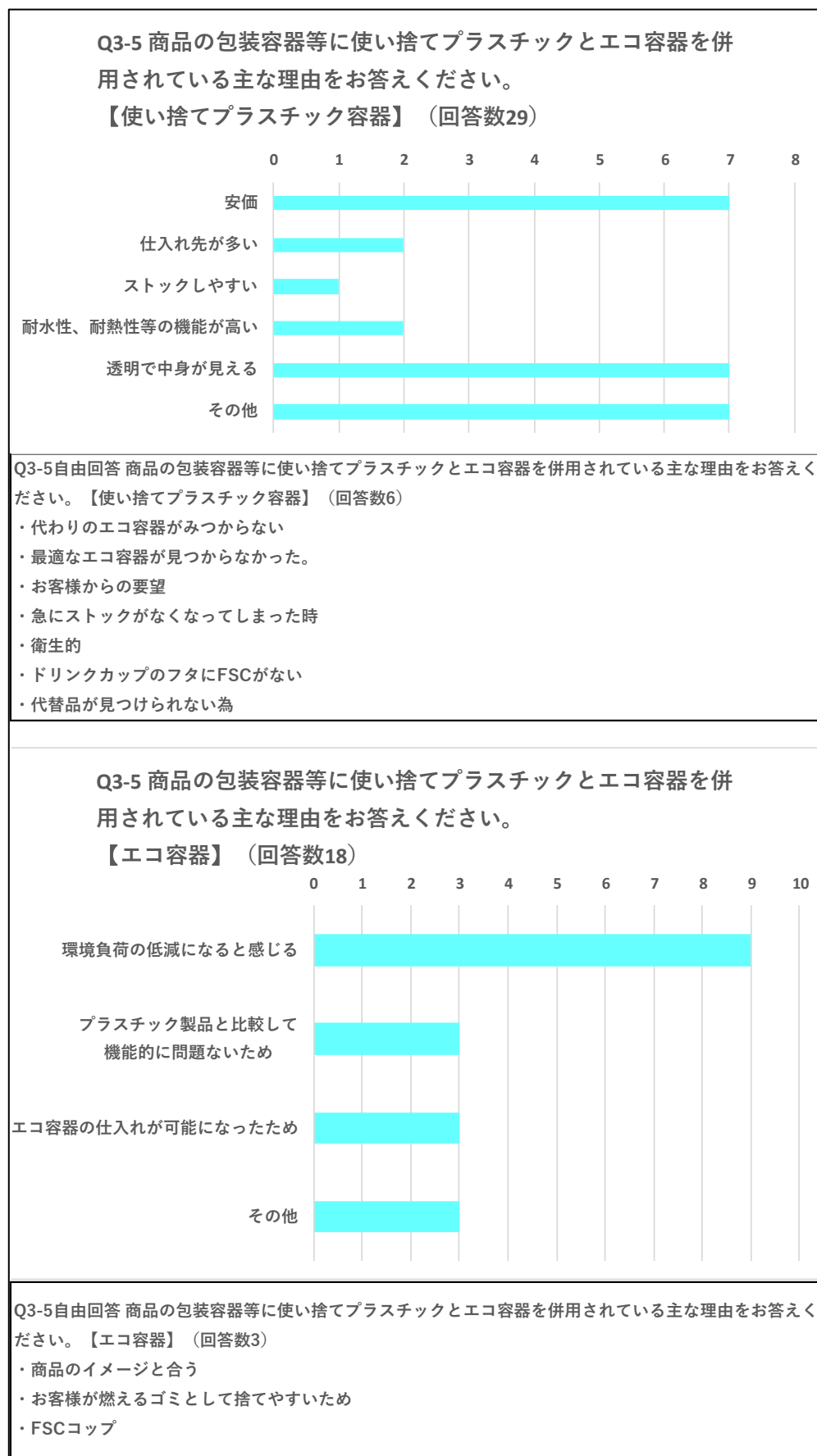


図 4.7-8 使い捨てプラスチックとエコ容器を併用している理由

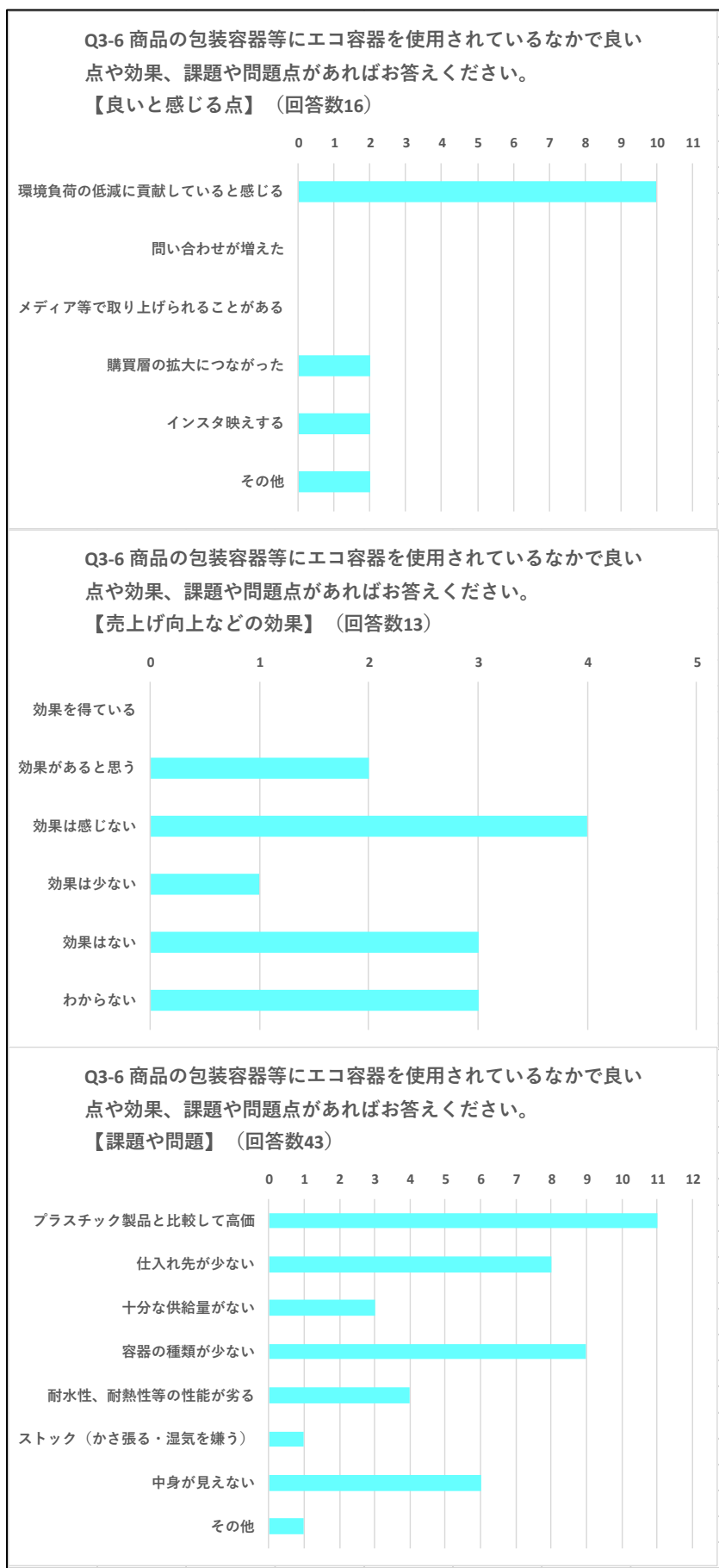


図 4.7-9 エコ容器の良い点・効果・課題点

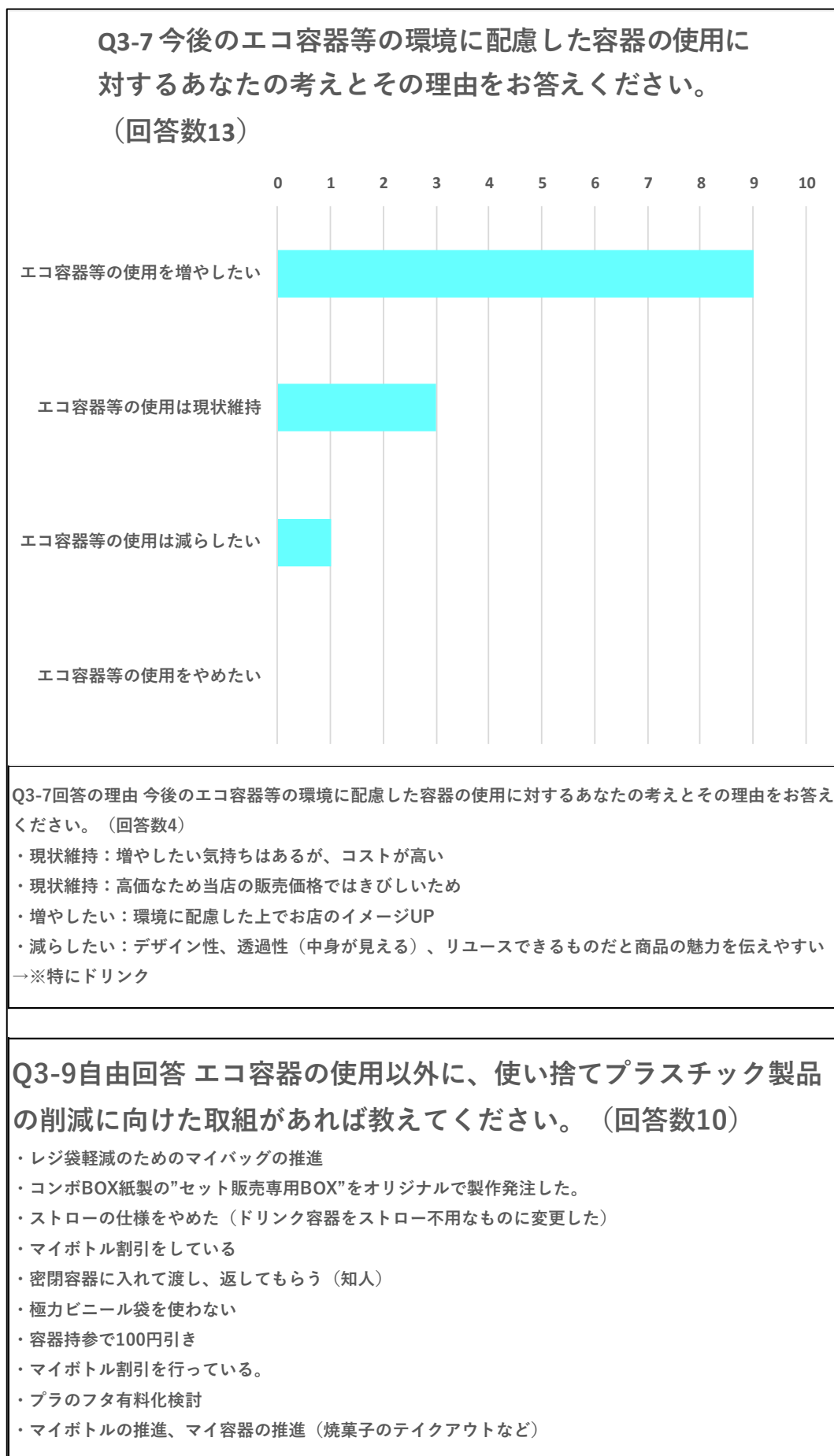


図 4.7-10 エコ容器に対する考え等・エコ容器使用以外の取組

(d) 使い捨てプラスチックは使用していない（Q 4）

Q 1 において、使い捨てプラスチック容器を使用していないと回答した店舗のアンケート結果を図 4.7-11～図 4.7-13 に整理した。

図 4.7-11（Q 4－1～4－2，Q 4－4）において、

（Q 4－1）今回のアンケート実施において想定した食器類のうち弁当容器・ドリンク容器、包装用品のうち袋類、カトラリーの全ての種類を使用している店舗からの回答が得られたことが解る。

（Q 4－2）使われているエコ容器の原材料については、さとうきび、とうもろこし、古紙等があげられた。

（Q 4－4）使い捨てプラスチック製品を使わない理由としては、環境に配慮しそれが選ばれる店になると考えた、石油製品から離れたい・子供たちの未来のためという回答があった。

図 4.7-12（Q 4－5）より、エコ容器使用の良い点・効果・課題等については、良い点としては環境負荷の低減へ貢献していると感じる、お客様の反応がよいとの回答があった。売上げ向上等の効果については、効果を得ている、効果があると思うとの回答があり、効果は感じない、少ない、わからないとの回答は無かった。課題や問題点については、プラスチック製品と比べ高価、仕入れ先が少ない、耐水性・耐熱性等の性能が劣るとの回答があった。

図 4.7-13（Q 4－6，4－8）において、

（Q 4－6）今後のエコ容器の使用に対する考えとしては、使用を増やしたいとの回答があり、減らしたい、やめたいとの回答は無かった。理由としては石油製品から離れたい・子供たちの未来のためという回答があった。

（Q 3－9）エコ容器の使用以外の環境に配慮した取組については、プラスチックだけでなく輸送による石油燃料の削減も意識した上でのマイボトル割引、マイ食器持参のお願いがあげられていた。

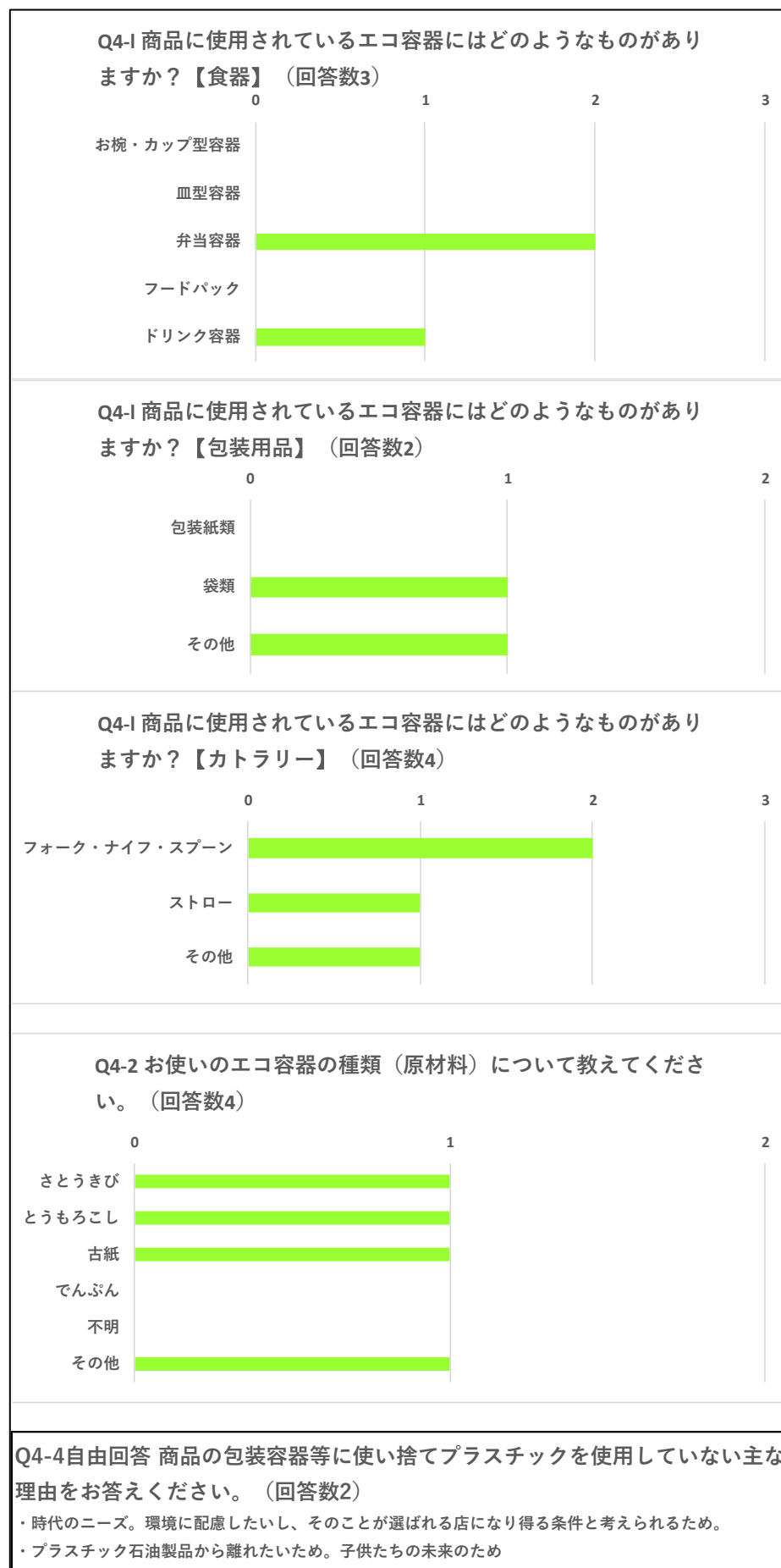


図 4.7-11 使用しているエコ容器の種類

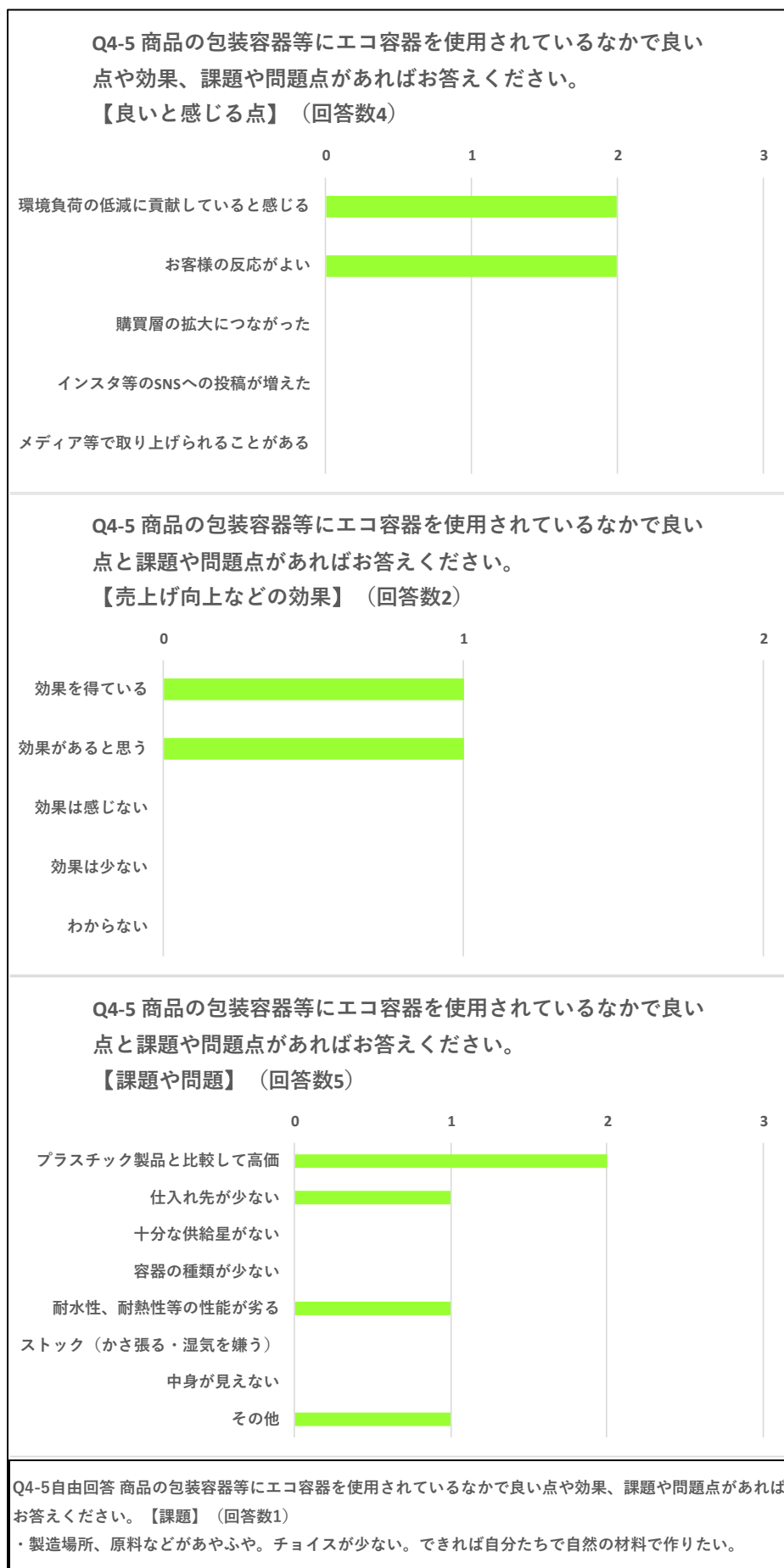


図 4.7-12 エコ容器の良い点・効果・課題点

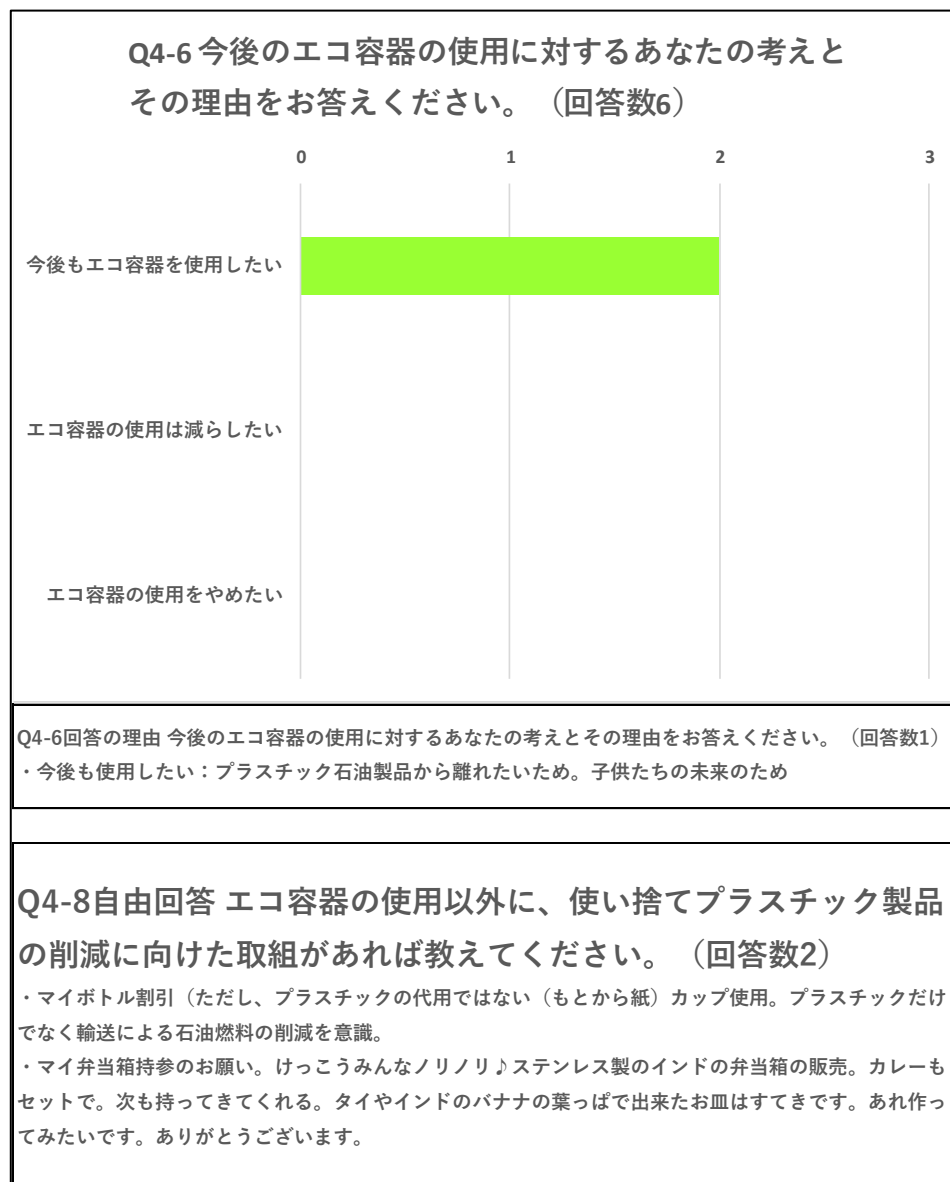


図 4.7-13 エコ容器に対する考え等・エコ容器使用以外の取組

②食品包装容器製造・販売業者（回答結果）

食品包装容器製造・販売業者へのヒアリングについては、県内には食品包装容器製造業者が存在しないため、流通販売業者2社（令和4年3月10日時点）を対象とした。

(a) 販売しているエコ容器の種類（Q1）

ヒアリング対象業者が販売しているエコ容器の種類及びコメントを表4.7-6に整理した。

A社では8種類、B社では7種類、C社では9種類のエコ容器を取扱っている。コメントからは、カトラリーについては環境配慮をアピールするために導入する店舗が増えていること、また、ホテルからエコ容器の問合せが増えていることが解る。

表 4.7-6 販売しているエコ容器の種類（Q1）

Q1 販売されているエコ容器にはどのようなものがありますか？												
	食器						包装用品			カトラリー		
	お碗・ カップ型 容器	皿型容器	弁当容器	フード パック	ドリンク 容器	その他	包装紙類	袋類	その他	フォーク ナイフ スプーン	ストロー	その他
A社	●	●	●	●	●			●		●	●	
B社	●	●	●		●			●		●	●	
C社	●	●	●	●	●		●	●		●	●	
コメント	【A社】エコ容器で最近販売量が特に増えているのは、弁当容器、フードパック、フォーク・ナイフ・スプーン、ストロー。フォーク・ナイフ・スプーン、ストローなどのカトラリーは、とりあえずエコ食器だけでも少しは取扱って環境への配慮を周囲にアピールしたい店の購入が増えている。また袋類も徐々に増えてきている（レジ袋の代替品として）。 【B社】エコ容器については、ホテルからの問合せが増えている。木製のフォークとスプーンのサンプルの提供があり、これをホテルへ紹介している。扱っている袋類はさとうきび25%の製品。 【C社】エコ容器については、ホテルからの問合せが増えている。											

(b) 販売しているエコ容器の原材料（Q2）

ヒアリング対象業者が販売しているエコ容器の原材料及びコメントを表4.7-7に整理した。

A社ではさとうきび、とうもろこし、バイオプラスチック製の容器を販売しているが、さとうきびととうもろこしの割合は6：4で、バイオプラスチックは僅かであり、B社ではさとうきび及び原材料不明、C社ではさとうきび、とうもろこし、古紙、でんぷんの4種類の原材料による容器を販売している。現在販売されているエコ容器の原材料は、さとうきびととうもろこしが主流であると思われる。

表 4.7-7 販売しているエコ容器の種類（Q2）

Q2 販売しているエコ容器の原材料について教えてください。						
	さとうきび	とうもろこし	古紙	でんぷん	不明	その他
A社	●	●				●（バイオプラ）
B社	●				●	
C社	●	●	●	●		
コメント	【A社】さとうきびととうもろこしの割合は6：4程度。バイオプラスチックの製品はごく僅か。 【C社】販売しているエコ容器の原材料は、選択した4種類のみだと思う。					

(c) エコ容器販売の動機（Q3）

ヒアリング対象業者がエコ容器販売を開始した動機及びコメントを表 4.7-8 に整理した。

A社・B社・C社共に、客先からの要望をあげており、A社・B社では、需要の見込み、環境保全への関心をあげている。またA社では、仕入れやすくなった、使い捨てプラスチック容器の廃止の流れも動機にあげている。コメントからは、エコ容器の仕入れ値は徐々に安くなっており、また製造メーカーからの営業が増えていることが解る。

表 4.7-8 エコ容器販売の動機（Q3）

Q3 エコ容器の販売を開始されたきっかけはなんですか？						
	客先からの要望があった	需要があると見込んで	仕入れしやすくなった	環境保全に関心がある	使い捨てプラスチック容器の廃止の流れを受けて	その他
A社	●	●	●	●	●	
B社	●	●		●		
C社	●					
コメント	【A社】エコ容器の仕入れ値は徐々に安くなっている。エコ容器の製造メーカーからの営業も増えている。 【B社】製造メーカーからのエコ容器の営業は増えている。当社の社長は環境意識は高い。 【C社】製造メーカーからのエコ容器の営業は増えている。					

(d) エコ容器の販売における利点・変化（Q4）

ヒアリング対象業者が考えているエコ容器の販売における利点・変化を表 4.7-9 に整理した。

A社・B社・C社共に、問合せが増えたことをあげているが、B社は若干増えている程度とコメントしている。また、A社は取引先が拡大していることをあげているが、B社では取引先は増えていないとコメントしており、対照的である。C社は、主な顧客がホテルであるが、ホテルからの問合せが増えていること、エコ容器を利用してみた結果使い難いため結局プラ容器に戻る場合もあるとコメントしている。

表 4.7-9 エコ容器の販売における利点・変化（Q4）

Q4 エコ容器の販売におけるメリット・変化はありますか？				
	取引先が拡大した	問合せが増えた	メディア等で取り上げられることがある	その他
A社	●	●		
B社		●		
C社		●		
コメント	【B社】エコ容器の取引先は増えてはいない。問合せは若干増えている程度。 【C社】ホテルからの問合せは以前より増えている。ただし、最終的には取引量が増えているわけではない。エコ容器を使ってみて、使い難いため元のプラ容器に戻る場合もある。			

(e) エコ容器の販売における課題（Q5）

ヒアリング対象業者が考えているエコ容器の販売における課題及びコメントを表 4.7-10 に整理した。

A社・B社・C社共に、プラスチック容器に比べて高価であること、種類が少ないことをあげており、A社・C社は中身が見えないことをあげている。またA社では、十分な供給量がない、耐水性・耐熱性が劣ることもあげている。

コメントからは、エコ容器は使い捨てプラスチック容器に比べて2～3割高価であることが解る。また、プラスチック容器に対するエコ容器の耐水性・耐熱性等の性能については、A社は性能がおとるとしているが、C社は日本製は優秀であり性能が劣るとは考えていないとコメントしており、対照的である。

表 4.7-10 エコ容器の販売における課題（Q5）

Q5 エコ容器の販売における課題はありますか？								
	プラスチック製品と比較して高価	仕入れ先が少ない	十分な供給量がない	容器の種類が少ない	耐水性、耐熱性の性能が劣る	輸送コストが高い	中身が見えない	その他
A社	●		●	●	●		●	
B社	●			●				●
C社	●			●			●	
コメント	【A社】エコ容器の販売で特に課題としてあげられるのは、高価と耐久性である。エコ容器は使い捨てプラスチック容器に比べて2～3割高価である。 【B社】エコ容器は使い捨てプラスチック容器に比べて2～3割高価。仕入れ先は多くなってきている。耐久性については取扱いが少ないのでわからない。 【C社】エコ容器は使い捨てプラスチック容器に比べて2～3割高価。日本の製品は優秀なのでエコ容器だからといって性能が劣るとは考えていない。中身が見えないのはとても不便。結局フタだけはプラスチックが使用される場合が多い。							

(f) エコ容器の販売における今後の展開（Q6）

ヒアリング対象業者が考えているエコ容器の販売における今後の展開及びコメントを表 4.7-11 に整理した。

A社では、販売先からの問合せや販売量が徐々に増えてきていることから、今後の販売拡大を検討している。

B社では、プラスチック資源循環促進法が2022年4月に施行されるため、その後の製造メーカーによる製品の変化を含めた動向次第と考えており、しばらくは現状維持としている。

C社では、B社と同じくしばらくは現状維持を選択しているが、食品包装容器は、プラスチック資源循環促進法の施行とは関係なく、安価で使いやすい容器が選ばれることになり、結局は販売先の需要に左右されるとコメントしている。

表 4.7-11 エコ容器の販売における今後の展開（Q6）

Q6 エコ容器の販売における今後の展開とその理由をお答えください				
	販売先、仕入れ量、販売物の種類等の拡大を検討	しばらくは現状維持	縮小を検討	縮小・廃止予定
A社	●			
B社		●		
C社		●		
コメント	【A社】販売先からの問合せや販売量は徐々に増えてきている。 【B社】エコ容器の取扱いについては、プラスチック資源循環促進法が2022年4月に施行されるため、その後の動向次第と考えている。製造メーカーの品物の質が変化することも予想される（原材料の配合率の変化等）。法施行前にプラスチック製ストローの在庫を売り切る努力をしている。 【C社】エコ容器の取扱いについては、客先からの注文次第。プラスチック資源循環促進法により、エコ容器の取扱量が増えるかどうかは解らない。結局は安価であること、使いやすい容器であることが選ばれる理由になるのではないかと考えている。食品包装容器の販売量は、法律よりも現場のニーズに左右されると考えている。			

(g) ヒアリング時におけるその他のコメント

上記(1)～(6)のヒアリング調査票によるヒアリング項目の他に対象業者から得られたコメントを表 4.7-12 に整理した。

A社では、現在の販売割合では使い捨てプラスチック容器に比べてエコ容器は量で1割、品目で2～3割程度であるものの、将来は割合が上がると思っていること、また、エコ容器を注文するのは、本土から来て開業した店舗が多く、地元で昔から営業している店舗では少ない。値段と質に課題があるため、地元で昔から営業している店舗では敬遠する傾向にあるとしている。

B社・C社では、エコ容器は高価であることから、普及を進めるためには製品のコストに補助金を導入する必要があるのではないかと考えている。

なお、A社は、県内で弁当容器では60～70%のシェアを持っており、月に1000ケースかそれ以上販売している。1ケースは500～600個。(これはヒアリング対応者の私信であり、正確なデータは無いとのこと。) ※

表 4.7-12 ヒアリング時におけるその他のコメント

その他コメント	
A社	・使い捨てプラ容器とエコ容器の販売割合は、 量では プラ9：エコ1 品目ではプラ8：エコ2 あるいはプラ7：エコ3 将来は量でもプラ6：エコ4 くらいになってくるだろう。 ・エコ容器を注文するのは、本土から来て開業した店舗が多く、地元で昔から営業している店舗では少ない。値段と質に課題があるため、地元で昔から営業している店舗では敬遠する傾向にある。 ・A社は、県内で弁当容器では60～70%のシェアを持っている。月に1000ケースかそれ以上販売している。1ケースは500～600個。(これはヒアリング対応者の私信であり、正確なデータは無いとのこと。)
B社	・B社は、浦添本店と北谷支店があり、本島南部から名護市までが販売展開エリアとなっている。 ・エコ容器は高価であることから、普及を進めるためには製品のコストに補助金を導入する必要があるのではないかと考えている。
C社	・当社の主な顧客は、飲食店ではなくホテルであり、販売先は沖縄本島内に加え宮古・八重山も含まれる。 ・当社では、製品の仕入れは客先からの注文次第であり、今後の動向予測による仕入れは行っていない。 ・エコ容器は高価なことから、普及を進めるために製品のコストに補助金を導入する考え方は有効と思う。 ・使い捨てプラ容器とエコ容器の販売割合は、プラ7～8割：エコ2～3割程度。

※A社からのコメントから計算すると、県内では毎月100万個程度かそれ以上の使い捨てプラスチック弁当容器が消費されていることになる。

③実施結果の整理

上記 3.2.1 テイクアウト飲食業者へのアンケート結果、3.2.2 食品包装容器の流通販売業者へのヒアリング結果について、沖縄県内における使い捨てプラスチック容器からエコ容器への転換の観点を踏まえ表 4.7-13 に取りまとめた。

●使い捨てプラスチック容器の主な利点としては、以下の点があげられる。

- ・安価
- ・透明で中身が見える
- ・耐水性・耐熱性等の機能が低い

●使い捨てプラスチック容器の主な課題としては、以下の点があげられる。

- ・環境への負荷を感じている。

●エコ容器の主な利点としては、以下の点があげられる。

- ・環境負荷の低減に貢献できている（店舗）。
- ・問い合わせ増、メーカーからの営業増、仕入れ値が下がっている（流通販売業者）

●エコ容器の主な課題としては、以下の点があげられる。

- ・高価
- ・仕入れ先が少ない
- ・容器の種類が少ない
- ・中身が見えない
- ・耐水性・耐熱性等の機能が低い

●エコ容器使用による売り上げ等への効果については、効果の有・無は分かれた。

調査結果からは、使い捨てプラスチック容器の主な利点とエコ容器の主な課題が正反対となっている。エコ容器の最も大きな課題は高価である点と考えられる。これに対し、流通販売業者へのヒアリング結果からは、エコ容器の仕入れ値は徐々に下がっていることが判っている。また、今後はエコ容器の需要増、製造メーカーによるエコ容器の種類や生産量の増加が見込まれる。

表 4.7-13 テイクアウト飲食業者・食品包装容器の流通販売業者の調査結果まとめ

		使い捨てプラスチック容器		エコ容器			その他
		利点・使用する理由	使用の課題点	利点・使用(販売)する理由	使用(販売)の課題点	売上げ等への効果	
テイクアウト実施 飲食業	全てあるいは殆どの商品で使い捨てプラスチック容器を使用	◎安価 ・ストックしやすい ・耐水性、耐熱性等機能が高い ・透明で中身が見える	◎環境への負荷 ・使い捨てプラスチック削減に向けた流れに逆行		◎高価 ・仕入れ先が少ない ・容器の種類が少ない ・耐水性、耐熱性等機能が低い		【今後のエコ容器への転換】 今後も使い捨てプラスチック容器を積極的に利用：16% エコ容器を使用したいが課題が多い：44% 機会があれば検討、今後は積極的にエコ容器に転換：40%
	可能なもの、あるいは極力エコ容器を使用	◎安価 ◎透明で中身が見える ・ストックしやすい ・耐水性、耐熱性等機能が高い ・代わりになるエコ容器がない		◎環境負荷の低減になる ・プラスチック製品と比較して機能的に問題ない ・仕入れが可能になった ・商品のイメージと合う	◎高価 ・仕入れ先が少ない ・容器の種類が少ない ・中身が見えない ・耐水性、耐熱性等機能が低い	◎効果は感じない ・効果はない ・効果はあると思う	【今後のエコ容器の使用】 増やしたい：69% 現状維持：23% 減らしたい：8%
	使い捨てプラスチック容器は使用していない			◎環境負荷の低減になる ◎お客様の反応がよい	◎高価 ・仕入れ先が少ない ・耐水性、耐熱性等機能が低い	◎効果を得ている、あると思う	
流通販売業者				◎問合せが増えた ・取引先が拡大した	◎高価 ◎容器の種類が少ない ・中身が見えない ・十分な供給量がない ・耐水性、耐熱性等機能が低い		【エコ容器販売の動機】 ◎客先からの要望 ・メーカーからのエコ容器の営業増 ・需要があると見込んで ・環境保全に関心 ・仕入れやすくなった (仕入れ値は徐々に下がっている) ・使い捨てプラ廃止の流れ 【エコ容器販売の展開】 ・需要増により拡大検討 ・現状維持(プラスチック資源循環促進法の動向、販売先のニーズ)

：調査していない

◎：多い回答

・多い回答に次ぐ主な回答

4.7.4 今後の方針・取組案等

本事業で実施したテイクアウト実施の飲食店、食品包装容器の流通販売業者へ調査実施結果を踏まえ、本業務における第2回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループを通じて、使い捨てプラスチック容器の使用を減らし、エコ容器やリユース食器等への転換、食品包装容器の削減への取組みについて検討した。

第2回発生抑制対策ワーキンググループにおいては、以下のとおり事務局による考え方の整理（例示）を示した上で議論した。

【使い捨てプラスチック容器の使用抑制に係る考え方の整理（例示）】

①エコ容器の利用率を上げるには、エコ容器使用に係る課題が解決される必要がある。

【エコ容器使用に係る主な課題点と今後の動向】

- ・高価：徐々に仕入れ値が下がっている ※高価である点が最も重要な課題
- ・仕入れ先が少ない：恐らく増えていく
- ・容器の種類が少ない：増えていく
- ・中身が見えない：解決できない？
- ・耐水性・耐熱性等の機能が低い：解決できない？

【懸念点】エコ容器の値段が下がっても、使い捨てプラスチック容器と同じか安くならないければ利用率は上がらないかもしれない。

【解決策】例①：行政の補助により価格を下げる

【解決策】例②：全てのテイクアウト容器がエコ容器になれば（メーカー側がエコ容器しか製造しなくなれば）、エコ容器しか使えなくなる

②食品包装容器の使用量を削減するには、マイボトル・マイ食器の普及が必要。

→海洋ごみの直接の削減につながる。

→飲食店が高価なエコ容器の導入を検討するよりも、マイボトル・マイ食器割引を導入する方が店側の負担は少ないかもしれない。

③普及啓発によるエコ容器の利用率向上、食品包装容器の削減

【解決策】例①：使い捨てプラスチック問題の普及啓発

→販売側も消費者もエコ容器を選択するようになる。

【解決策】例②：行政によるエコ容器使用店やマイボトル・マイ食器割引き導入店の認証制度を導入。エコ容器を使用している店、マイボトル・マイ食器割引きを行っている店を消費者が選びやすくなる。行政が認証制度を導入することにより、プラスチック問題の普及啓発が進む。

④以上の①～③より、官民の取組み方針を整理

●沖縄県の取組(案)：推進できる方策の検討（例えば制度導入検討など）、沖縄県商工会連合会と連携した飲食業者や販売業者への普及啓発、県民へのマイボトル・マイ食器の利用拡大のための普及啓発。

●民間側の取組(案)：【民間団体】海洋プラスチックごみ問題の環境教育・普及啓発の実施。県民へのマイボトル・マイ食器の利用拡大の普及啓発。

【飲食店】エコ容器使用の拡大、マイボトル・マイ食器による販売や割引の促進など。

第2回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループの議論を通じて検討した今後の使い捨てプラスチック容器の使用抑制に係る方針・取組案を表4.7-14に整理した。

表4.7-14 使い捨てプラスチック容器の使用抑制に係る方針・取組案

※表中では使い捨てプラスチック容器を「プラ容器」と称する。

取組主体	取組内容	背景や考え方等
官民連携	場所やイベントを限定してプラ容器の使用を制限する。	一斉にプラ容器を制限するのは難しい。現在石垣島でエコ容器の取扱いが増えているのは、石垣島祭りで食器をエコ容器に限定したため、島民の意識が変化し需要が増えたと考えられる。
	ごみを減らすためのリユース食器やマイ食器の導入	・衛生的に問題のない取扱い・ルールを官民で検討する。 ・導入例、先進事例は全国に多くあり、参考にできる。
民間	普及啓発・環境教育	海洋プラスチックごみ、使い捨てプラスチックごみの問題や、取組むべき課題等に係る普及啓発・環境教育は、民間が担える重要な取組みである。
行政	行政主催のイベントにおけるエコ容器、リユース食器等の導入	・例えば、県に係るイベントでは、エコ容器やリユース食器以外は使わないという方針があってもよい。大きなイベントでは参加者層も広く、普及啓発に効果がある。 ・行政主催のイベントであれば、エコ容器やリユース食器の導入に係る費用の補助が円滑に実施できる可能性があるのではないかな。
	エコイベントの推奨、補助	特定の業者や民間に補助金を導入するのは得策でないが、一定の条件を設けてエコ容器やリユース食器を導入するエコイベントへの補助を検討する。
	学校におけるプラ容器削減の取組み	運動会や学芸祭などの学校のイベント、学校給食等におけるプラ容器削減の取組みを推進する。
	エコ容器やリユース食器導入店のイメージアップ	エコ容器の普及が進まないのは、高価な面だけでなく、導入店の売上げやイメージアップにつながっていない点を踏まえ、県の観光PRやテレビ番組等で導入店を紹介する等のアピールを行う。
	プラ容器規制の条例等の策定検討	県だけでなく市町村でも条例の策定は可能であるため、それぞれの地域で実現可能であるか検討する。

4.8 令和4年度以降の発生抑制対策の検討

令和4年度において沖縄県では、令和3年度沖縄県海岸漂着物等地域対策推進事業に引続き、沖縄県海岸漂着物対策地域計画（以下「地域計画」という。）に基づいた「海岸漂着物等の回収・処理」及び「海岸漂着物等の発生抑制対策」に係る調査検討や対策事業を実施する予定である。

令和4年度の発生抑制対策については、沖縄県が実施した過年度の発生抑制対策を通じて整理された課題や、本業務の成果及び海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループの議論を通じ、次ページ表 4.8-1 に取組案を整理した。

また、第2回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループでは、表 4.8-1 の取組案とは別の課題として、以下の指摘がされている。

- ・ 県内では市町村により海岸清掃活動への対応が変わる（分別ルールや指定ごみ袋も含めて）ため、海岸清掃活動を実施したい人が各市町村それぞれのルールを把握していないと円滑に取組めない課題がある。県環境部がこの課題解決に主体的に取り組む必要がある。
- ・ プロジェクトマナティの取組のように、参加費が必要な海岸清掃活動では、清掃活動自体はボランティアであっても、市町村が事業活動と判断して回収ごみを一般廃棄物として受入れない場合がある。この点について、県環境部主導による課題解決が必要である。
- ・ 観光客が集まる海岸では、観光客からごみ箱設置の要望が出ている。鹿児島県の与論島や沖永良部島では、海岸に海岸漂着物専用のごみ箱が設置されており、ごみが少ない状態を保っている。県内市町村においても、鹿児島県の事例を参考に導入を検討してみる必要がある。

表 4.8-1 令和4年度以降の発生抑制対策の取組(案)

取組項目	取組内容(案)
①ワーキンググループの設置・運営	本業務で組織・運営するWGを今後も継続し、海岸漂着物の発生抑制対策に係る課題と対策方針、更にはその実行性を高めるための協議を行う。開催回数は年2~3回程度とする。
②陸域からの発生抑制対策の検討・実施	・地域あるいは流域圏単位において、主に市民生活、地域産業、関係行政がそれぞれあるいは連携して目標を持ったごみの排出抑制に取組む体制の検討。 ・使い捨てプラスチック容器等減量に係る普及啓発の検討(官民連携により、主にイベント運営者、参加者それぞれ個別に実施)。※地域の小売店、釣人への普及啓発も検討する。 ・県内の大規模なイベント等におけるプラスチック容器の削減(マイ食器やリユース食器の導入等)に向けた県内の多様な関係者が連携した取組実施。※県内で実績あり。
③海域からの発生抑制対策の検討・実施	マリンレジャー等の観光業、漁業従事者、海を利用する住民や観光客等を対象とした発生抑制対策として、①課題抽出のための現況調査及び対策方針の検討、②県内各地域における海の利用者、利用業界を対象とした普及啓発のためのワークショップを開催、③海域からの発生抑制対策に係る普及啓発方法の検討・教材作成、の3つの取組を実施。
④県内各地域における対策に係る課題抽出と対応策	過年度の沖縄県事業により、県内で求められている発生抑制対策や環境教育・普及啓発の内容は各地域により様々であるため、各地域に適応した発生抑制対策や環境教育・普及啓発方法を調査・検討。
⑤人材育成の取組	発生抑制対策に係る人材が不足しており、県主導で人材育成の支援実施を行う。 ・学校の環境教育に対する民間団体の支援や連携について、事例集の形で調査・整理する。 ・県内各地域の事情に応じた人材育成の取組方法の検討と、試行的実践。 ・県内では海岸漂着物の発生抑制対策に係る人材や後継者が不足している状況から、次世代を担う大学生やボランティア清掃活動を実施している者が学校の出前授業や海岸清掃活動の現場で活用できる環境教育・普及啓発プログラムを検討する。 ・普及啓発、環境教育だけでなく海岸清掃活動を主体的に実施する人材の育成も必要。
⑥環境教育・普及啓発の推進	・民間団体による学校での環境教育については、対象校の拡充や継続的な実施のため、行政(県・市町村の廃棄物担当部局及び教育委員会等)、民間の連携・協力体制構築が必要。 ・海岸漂着物に係る環境教育については、現状は県内各地域で内容やレベルがまちまちである。この課題を各地域毎に解決するのは困難であり、県が主体となって進める。
⑦普及啓発教材の有効活用	・過年度の沖縄県事業では、様々な環境教育・普及啓発教材やプログラムが検討・作成されてきたが、それらが必ずしも有効活用されていないこと、また、増刷の要望が高い教材があることから、これらの課題に対応する。
⑧海外交流事業計画・運営	・環境教育プログラムの共有と環境教育・普及啓発の活動報告、活動報告を踏まえたより効果的な活動内容に係る協議 ・海域からの発生抑制対策に係る課題の抽出と対策実施のための協議 ・陸域からの発生抑制対策に係る官民・地域関係者の協力連携体制構築のための協議 ・情報共有プラットフォームの継続的な活用と運用
⑨県民向けワークショップの開催	・県内で海岸漂着物の回収や普及啓発活動を実施している企業、民間団体、住民を対象として、県内の官民それぞれの取組や東アジアの取組を共有しつつ、今後の活動内容を考えるためのワークショップを開催する。